

原告準備書面(18)

被告による汚染水処理と
原発を稼動する資質・能力について

汚染水とは

- 汚染水とは、福島第一原発事故で溶けた核燃料を冷やすために原子炉に投入した水が放射性物質を含んで建屋の地下に貯まったものである。
- この汚染水は、地下水と混ざって新たな汚染水を生み出している。

汚染水内の放射性物質

現在の汚染水に含まれている主な放射性物質は以下の通り。

- ・セシウム137（揮発性が高く大気中に放出）
- ・ストロンチウム90
- ・トリチウム

汚染水処理に関する人為的ミス

- ゴムパッドの置き忘れによるALPS停止
- ホースの誤接続による雨水漏れ
- 水位計を見誤って雨水がタンクから溢れる
- 配電盤操作ミスによる注水一時停止
- ホースの付け替えミスにより作業員が汚染水を浴びる
- 田中俊一規制委委員長「ばかげたようなミス」

放射性物質の検出

- 9月9日 ストロンチウム3200ベクレル/L
(井戸)
- 9月13日 トリチウム15万ベクレル/L(井戸)
- 10月10日 セシウム1.4ベクレル/L(港の外
の海水)
- 10月12日 セシウム10ベクレル/L(港
湾口の海水)

放射性物質の検出

- 10月10日 トリチウム32万ベクレル/L(井戸)
- 10月17日 ストロンチウム40万ベクレル/L、トリチウム79万ベクレル/L(いずれも井戸)(いずれも最高値更新)
- 10月23日 ストロンチウム5万9000ベクレル/L(排水溝の水)
- 10月24日 ストロンチウム14万ベクレル(排水溝の水)(最高値更新)

放射性物質の検出

- 11月11日 ストロンチウム55万ベクレル／L(井戸)(最大値更新)
- 11月12日 ストロンチウム71万ベクレル／L(井戸)(最大値更新)

被告の安全文化

- 平成23年6月、遮水壁設置の先送り(株主総会を乗り切るため)
- 平成25年7月、汚染水の海への流出を遅れて発表(参院選への影響を考慮か)
- 規制委田中委員長「東電の安全文化に問題がある」

福島第一原発で汚染水の処理を適切に行うことができない被告が、本件原発を適切に稼働させ、過酷事故時に適切な対応を行うことが出来るのか？